

開 議

○内谷邦彦議長 おはようございます。

これから本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員はございません。

よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

本日の会議は、配付しております議事日程第3号をもって進めます。

日程第1 市政一般に関する質問

○内谷邦彦議長 日程第1、市政一般に関する質問を昨日に引き続き行います。

初めに、政党代表質問を行います。

それでは、順次ご指名いたします。

今泉春江議員の質問

○内谷邦彦議長 順位6番、議席番号15番、今泉春江議員。

(15番今泉春江議員登壇)

○15番 今泉春江議員 おはようございます。

日本共産党の今泉春江でございます。大きく二つについて質問いたします。答弁は市長に求めます。

まず1つ目です。市道花作平山線の消雪化の促進について、私たち日本共産党は、命、暮らし、平和を大切に、国民の苦難軽減のために頑張っております。地方自治体でも市民の声を議会に届け、市政に生かすために頑張っており

ます。

さて、全国的に今年の冬も大雪となりました。本市も降雪で市民の暮らしには影響がありました。市内の主要な道路はほとんど消雪道路となっていますが、消雪でない市道では、今年も車や通行人、さらに地域住民には大変な苦勞がありました。

除雪を担当する課などでは、市民からの除雪の仕方などに要望がたくさん寄せられており、配慮をいただいておりますが、しかし、全て市が解決できるものではなく、除雪後の雪の塊などは、地域住民の協力が必要です。除雪車両が置いていく雪は、その残された大きな硬い雪の塊には大変難儀されています。雪の捨場がないところでは毎年大変苦勞しており、地域の大きな課題となっています。

まず、そのような道路の一つが、以前より指摘されている市道花作平山線、通称法讚寺通りです。長さ130メートルほどの距離ですが、道路沿いにはアパートが3棟あり、26世帯、一般住宅も四ツ谷、あら町などの15世帯の合計41世帯がこの道路に面しており、この道路を使用するしかありません。

この道路は狭く、車の交差には譲り合いが必要ですが、冬は除排雪の雪が置かれたままとなり、側溝などに落ちる車が度々あります。特に日陰のところでは大きなわだちができ、冬の車の擦れ違い通行に支障があります。

冬の道路はどこでも大変ですので、ここだけを強調したくはありませんが、この道路を使用する住民だからこそ、その現場の毎日の様子が分かるのです。地域住民だけではなく、この道路を使う市内外の方々から、あんな道路は市内にない、何とかしろと強い調子で毎年言われます。申し訳ないと謝るしかありません。

また、この道路は市営バスの定期コースにもなっており、特に冬のお客様の安全を心配しています。また、昔からの道路で百間道路、花作

町、館町、あら町、本町などに抜けるための車が多く通行します。また、大きな寺があり、檀家の方々が大勢この道を使います。大きな駐車場もあり、出入りが大変です。狭い道路、雪の捨場がない、住宅が多くある、車の往来が多いなど、市民の安全のためにどうしても消雪化が必要な道路ではないでしょうか。

市道花作平山線、通称法讃寺通りの消雪化の要望は、関係する住民が消雪化推進の会を立ち上げ、2013年2月21日に、あら町地区長、四ツ谷地区長の連名の下、消雪化を要望。賛同する53名の署名を添え、地元呼びかけ人5人の方々が建設課長立会いの下に内谷市長に面会し、消雪化を要望いたしました。内谷市長は、地元代表人の意見を真剣に聞かれておりました。このたびの施政方針でも、内谷市長は、市民の皆様との対話を何よりも大切にし、常に市民の皆様の声に耳を傾けながら、全身全霊をもって市政のかじ取りに当たる覚悟でございますと述べられています。このことは、以前より市長の市政に対する強い思いがあったのだと改めて思いました。

その後、2017年12月議会に消雪化要望の請願が出されました。当時の産業・建設常任委員会で現地視察もしていただき、建設課と地元住民も立ち会い、代表の方が説明され、その後の議会の審査で採択となりました。

地元住民は大変喜び、今か今かとずっと待っております。その当時の住民の皆さんは現在80歳代から90歳以上となり、今、除雪できる方は、除雪機を持っている92歳の高齢の方しかいないような現状です。年齢など関係ありません。できる方がするのは当たり前ですが、いつまでできるのかなど、ご近所でも心配しています。

私は消雪化を何度も要望しておりますが、新年度予算議会である3月議会に、改めて消雪化を要望します。

改めてお聞きします。市道花作平山線、通称

法讃寺通りの消雪化の計画はどうなっておりますか。計画を説明ください。できないのか、しないのか、理由がありましたら、住民にも分かるように説明ください。多くの市民の願いである市道花作平山線、法讃寺通りの消雪化を再度強く要望します。市長のお考えをお聞きします。

次の質問です。柏崎刈羽原子力発電の再稼働に反対の意思を示すべきについてです。

私たち日本共産党は、原発の再稼働、新增設に反対し、原発ゼロの日本を目指しています。原発に代わり、再生可能エネルギーの本格導入と地域産業再生を優先しています。そして、自然エネルギーへの転換を訴えています。そこで、柏崎刈羽原発の再稼働について、市民の暮らし、命を守る先頭に立つ市長のお考えを再度お聞きします。

柏崎刈羽原発6号機が1月21日、再稼働しましたが、制御棒監視装置の不都合で一時停止後、2月9日に再起動し、3月18日から営業運転を目指し最終確認中と報道されていましたが、2月20日に原子炉を計画的に止め設備を確認する中間停止に入り、タービン関連の設備や機器に異常がないかを確認、再稼働後に見つかった不都合の原因調査や補修を行う、そして再び原子炉を再稼働するとしています。しかし、今後、特定重大事故等対処施設の完成が遅れているため、2029年9月以降は運転停止が避けられない見込みと報道されています。

また、7号機は、テロ対策施設の2025年の設置の完成が2029年8月に延期されたため、それまでは稼働できない状況とされています。このような報道があり、再稼働の安全性について、ますます不安が大きくなっています。

2月22日の「しんぶん赤旗」の潮流という欄の記事を一部紹介します。15年前の東京電力福島第一原発の事故は、浪江高校、津島高校、富岡高校、双葉高校、双葉翔陽高校の青春時代の思い出が刻まれた5つの福島県立高校を、一瞬

にして休校、事実上、廃校状態に追い込みました。事故から15年の双葉町では、国道沿いに放射線で汚染された土砂を入れるフレコンバッグが野積みされ、放射線量が高く、帰還困難区域の看板があちこちに立っています。

双葉高校は、高校野球全国大会に3回も出場した実績のある伝統校です。球児たちが汗を流したグラウンドの面影はありません。初めて甲子園の土を踏んだのは1973年、創立50周年でした。既に福島第一原発1号機が71年に運転を開始していました。

双葉高校は、新聞部が「原子力発電の安全性を問う」という大特集を組み、地元住民は安全性への疑問を抱き、世界の学者、専門家も、絶対的な安全性は十分確立されていないのが現状であると記しました。終わらない原子力災害の現場は問いかけています。政府、東電の言う「フクシマ復興」は見せかけの演出にすぎず、地震列島日本には原発は要らないと最後に書かれていました。

この記事を見たときに、このたびの柏崎刈羽原発の再稼働に大きな失望感が湧いてきました。なぜ福島の事故の教訓を生かさないのかと胸が苦しくなりました。目に見えない恐怖のようなものが込み上げてきました。青春真ただ中の高校生の夢も無残に破り捨ててしまったことも忘れてはなりません。そう思うのは私だけでしょうか。

新潟県では、再稼働に反対する抗議が、抗議行動の輪がますます大きくなっています。前回の質問でも言いましたが、本市は、距離的には福島原発と同じぐらいですが、山形気象台から一年中西風が吹いているとのデータをいただいています。また、テレビでは、毎日のように海から長井方向に風が吹いている状況が報道されています。もし事故が起きれば、死の灰、放射能が私たちの頭上に降ってくるのです。さらに、軟弱地盤でゆがみもあり、頻繁に地震も起きて

います。本市の市民の暮らしを守るために、柏崎刈羽原発の再稼働に反対すべきと考えますが、お考えを再度お聞きします。

以上、壇上からの質問といたします。

○内谷邦彦議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 おはようございます。

日本共産党の今泉春江議員のご質問にお答えいたします。

議員の方から、大きく2点につきましてご質問、ご提言をいただいておりますので、順次お答え申し上げます。

まず最初のご質問でございますが、市道花作平山線の消雪化についてということで、議員からは3点ほどご意見、あるいはご質問をいただきました。1つ目には、市道花作平山線、通称法讃寺通りの消雪化の計画はどうなっているのか。2つ目は、消雪化ができない、あるいはしない理由があれば、市民にも分かるように説明を求める。3点目は、市道花作平山線の消雪化を求めるということでございました。

今泉議員からもいろいろ、壇上のほうで本路線についての状況やら、地元の要望等々をいただきましたけれども、平成25年の2月に地域住民の皆様からご要望をいただきまして、平成29年の12月議会におきまして消雪化を求める請願が採択され、今泉議員からの一般質問にお答えをしております。

これまでも申し上げてまいりましたとおり、市道の消雪施設整備の基本的な考え方としては、除雪状況や交通量に加えて、公共性及び危険性などを考慮して優先順位を決めさせていただかなければならないということで、その優先順位、あるいは以前よりご要望いただいたということを基準に、順次対応してきたところでございます。

市道の消雪化につきましては、現在は社会資本整備総合交付金事業等々を活用して整備を行っております。近年では、平山境線が平成30年

度に完了しまして、平成26年度に道路改良工事に着手した幸町中道線がやっと、今年度末で事業完了を予定しております。こちらも着工してから、もうかれこれ10年ぐらいかかっております。

いずれの路線も交通量の多い主要な幹線道路であり、近隣に保育所や教育施設等を有する公共性が高いということ、また、雪を、機械除雪するときには置場がないといったことなどもあって、優先順位を決めて整備を進めてきたところでございます。

なお、幸町中道線は、地域からの当初の要望から40年経過しております。道路の消雪の要望については、昨今、高齢化の進展もありまして、多くの地域から要望をいただいております。整備要望があり、あるいは議会の請願の議決をいただいたところも含めてでございますが、館町八景線、台町1号線、ご指摘の花作平山線、花作1号・2号・3号線、それから開基田線、川原沢成田線、あけぼの町内の全線、南駅前線、北東線のほか、緑町地区、あるいは駅西公園駐車場など多数ございますし、あと、最近ですと、花作の新たな造成工事、長井市としては初めての宅地造成でございましたけれども、その関連として隣の交通量が増えるということで、住宅地へも地元からぜひやってほしいと、それも残念ながらできないでいるわけです。それから、はなぞの保育園が移転したことに対しまして、そこに新たな、市のほうでも宅造をそこ進めたんですが、新たな保育園ができました。おひさま保育園さんですけども、そちらについても、ぜひ、立地する際に、保護者が通るので、なかなか狭いので大変だということで要望をいただいておりますが、そちらも残念ながらお待ちいただいております。そういった状況でございます。

それで、長井の、実際、現在どのぐらいの消雪の延長があるのか、あるいは山形県、県内35

の市町村で、こういった消雪道路というのを整備しているかということをお申し上げますと、長井市内で機械除雪しているところは328.6キロで、うち、それ以外に消雪道路、消雪施設ということでの延長が20.7キロ。これはほぼ中央地区の都市計画区域内でございます。これらの整備は、昭和の50年代にほとんど整備されております。それはなぜかということ、積雪寒冷地対策事業という補助事業が当時はございまして、これは平成の初めになくなってしまったんですが、そのときに、約10年ぐらい、十四、五年ぐらいの間にこの20.7キロのほとんどが整備されております。それがなくなってしまったということから、実は長井市では、消雪道路をその後再開したのは、私が市長に就かせていただいた後なんです。

一番最初は、たしか平成19年、20年頃に、前の長井市立総合病院のところの、あそこの周辺の地域で、途中で工事が終わっていたところがあったんです。ボーリングしてポンプはあるところが、その後の道路に消雪のパイプを引いて、そこから消雪をするという工事がされてないところがあったんです。これはもったいないと、何らかの事情でその後できなかったんでしょうけども、これは無駄だと。やはりボーリングというのは非常にお金もかかりますし、そこで一度、延長で200メートルぐらいだったと思うんですが、そこを消雪いたしました。というのはこれ、財政再建が明けたあたりの見通しで、平成22年ぐらいに最初にやった工事だったと思います。そこから、ああ、消雪するんだということていろんな要望が改めて出てきたんです。

その前の昭和の時代に要望いただいていたものもたくさんあったようです。私のほうは、これはこれからの時代、もう山形県は消雪していませんので、それから故障したところも、故障したところはそこで終わり。実際、時庭の白川橋のところもそうなっているんです。

一方で、35の市町村の中で、消雪工事を今やっているのは長井市だけです。米沢市なんかについては、もう地下水の問題もあって、消雪道路、あるんですけども使っていないと、そういう状況なんですね。

でも、今泉議員からありましたように、ごもつともなんです、その意見は、私は何とか実現したいと、諦めてはおりません。ただ、昭和から平成にかけて時代が変わりましたし、山形県では平成10年、ですから今から二十七、八年前このときの建設工事の事業費がピークで、そこから今は半分です。

なおかつ、国のほうでは、平成22年頃から、コンクリートから人へということで大幅に、特に道路工事関係は予算を減らされました。そういうことで、一部復活はしているんですが、今度は長寿命化ということで、新たに道路を切ったり、あるいは消雪の設備を新たに造つたらいいということは、なかなか予算がつかないという状況になっておりますので、そういった状況で、私どもとしては、重々住民の皆様、市民の皆様のご要望をお受けしたいんですが、なかなか厳しいというのが現状でございます。

消雪道路の整備は、初期投資が非常に高額であるということから、国の補助制度を活用しながら進めております。これを単独でなつたら、たちまち、今でもいろんな事業をやつてきて、しかも補助事業、交付金事業などを最大限活用してやりながらも、もうかなり財政的には、来年あたりがちょうど厳しい状況でございます。そういった中でございますので、単独事業というのはもつてのほかだということで、何とか国から地方自治体への道路整備に対する財政支援ということを求めていきます。ただ、先ほど申し上げましたように縮減傾向でございます。そして、少子高齢化や人口減少の進行を背景に、既存道路施設の長寿命化対策のほうに重点的に予算が配分されております。加えて、度重なる

災害の復旧対応にも多くの財源が充てられている状況にあります。また、道路の消雪化を含め、市道全体で多くの要望をいただいている中、除雪状況や交通量、危険性、公共性などを総合的に勘案し、人口減少社会を見据えての費用対効果を十分に検討した上で、優先順位を定めて事業化が必要であると考えております。そのため、現時点では未路線の消雪化についての具体的な計画はまだ白紙の状況ではございますが、事業化の見通しを立てることができない状況を、何とかこれを打開していかなくてははいけないと考えています。

消雪道路の延長は、長井市の場合20.7キロと先ほど申し上げましたけれども、これまで整備した消雪施設は、昭和の時代でございますので、こちらもう50年たっているんですね。したがって、ポンプをもう一回替えなくてははいけない、管に詰まっていたりなかなかきれいに出ないとか、あと、例年の20.7キロの維持管理だけでも相当な金額がかかります。そんなことから、ぜひ、特別な補助事業などを、例えば前にあら町のところでもしました都市再生整備計画事業、今もやっている事業ですが、そういったときに合わせて、総合的な事業の中で、この道路は消雪にしなくてははいけないという根拠をしっかりと立てながら、そして事業全体を国でお認めいただいて、そして、その一環として消雪を進めていくという手法を最近取っております。

例えば、宅造する場合は、宅建業界の皆様、あるいは建設業界、あとは建築関係の皆様からご意見を聞きますと、今度宅造したところに消雪の機能があるかないかで全然売行きが違いますということで、今回も成田で行っております。これは、中央地区以外では初めてなんです。これは、反対もありました、議会から。ただし、中央地区だけではなくて、都市計画でできるところは、住民の要望に応えなくてははいけないということで、それも今回の都市再生整備計画事業、

宮・小桜街区を中心とした文教の杜の周辺のウォークアブルシティの一環としてそれもやるんですが、そういったことで、なかなか国の社会資本整備総合交付金のほうが、本当に枠が小さくなっていますので、そういったことも両にらみで考えていきたいと思っております。

議員からありました市道花作平山線の測量調査を、その後すぐに実施したんですね。そのときの概算費用といたしまして、井戸1基、ボーリング、揚水管、ポンプと操作盤で約4,500万円、それから配管工がメートル約45万円かかりまして、要望箇所は150メートルということで6,750万円、合計で1億1,000万円ちょっとかかると。これが年々単価は上がっていますので、実際工事するときにはもっとかかるわけですが、あとは、150メートルなんですけども、私どもとすれば、1回のボーリングで大体最大500メートルぐらいできますので、できれば、ボーリングの費用はすごく大きいんですよ、5,000万円近くかかるわけですから、それを考えた場合、その周辺500メートルぐらいできればいいんですけども、そうしますと百間道路までつなぐということもあるんですが、あそこを、特に法讃寺さん前のところは水路が、あとは日当たりが悪いので非常に雪はけが悪いんですけども、水路もちょっと狭くなっていますが、あちらの花作とか百間道路のほうに行きますと水路が広いんです。ですから、直接雪を捨てることができるから優先順位は低いということにどうしてもなってしまうって、私どもとしては、決してしないということではないんですが、なかなか優先順位的には少しお待ちいただいてという考え方でおります。

地域の皆様のご要望は十分理解しておりますし、また、高齢で、もう雪はきできないという方がたくさんいらっしゃるって、私も、今年は総選挙もあったということで少ないんですが、それでも寺泉区、それから時庭区、成田区、勸進

代区、勸進代区は私行けなかったんですが、そのほか、区単位でかなり集まって、30人、40人ぐらいでの、市政報告会とか意見交換会をやったり、あとは単独の集落ですと五祭所であったり、寺泉ですね、それから九野本の八雲であったり、そういったところもいろいろやっていますが、消雪の問題は必ず来ます。おっしゃるとおりで、したいんだけども、なかなか、まず都市計画区域でないと難しいと、補助事業の対象になかなかならないということと、あと、何とか機械除雪で丁寧にいたしますのでよろしくお願ひしますということでご了承いただいている状況でございます。

したがって、市民に分かるように説明をということでございますが、単純なことではないんですよ。いろいろ優先順位やら、あるいは優先順位だけでなく、以前から要望いただいたところもできるだけ早くしなくてはいけないですし、あとは、何らかの事業と一緒にしないと解決しない。また、都市計画区域内では駄目だとか、そういったことがありますので、このたびの花作平山線の消雪化につきましても、決してできないということではございませんが、何とか町内の皆様のご要望に応えるべく、いろいろな補助事業等々を組んでいきます。

補助事業は、単独の道路だけの補助事業はないわけで、総合事業ですから、その際には、以前ありましたように、一番最初、議会のほうからも反対、3回否決されて大変だった道の駅、川のみなと長井とか、あれなんかも、3回否決されたものですから、実は公園は、今度公園を造る、スポーツ公園です、河川敷の反対側の。あそこ、実は道の駅と併せて、国で買っていたいて、そこを私どもへ無償で貸与して公園にするという計画でいたんですが、結局それが国のほうで、長井市さんはそういったことに対して理解がないんだという判断をされて中座していました。それをようやく、「くるんと」とか、

いろいろな事業で信頼も回復したんで進めていただいて、今回、工事をするんですが、そういったことで、総合的な事業でやるのが一番早いかかなと思っておりますので、ぜひその辺のところを、その総合事業のどこが悪いのか、どうすればよくなるのか、そういったところなんかのご助言、ご意見などいただきながら進めてまいりたいと思いますので、地元の皆様には大変申し訳ございません。もし地元の皆様で、直接聞きたいということでしたら、何らかのしかるべき時期に、どこかご指定いただいた場所に、あるいは場所がないということであれば市役所のほうで用意いたしますので、おわびをさせていただきながら説明をさせていただきますので、よろしくご理解賜りたいと思います。ありがとうございました。

続きまして、2点目の柏崎刈羽原発の再稼働に反対をということのご質問でございます。

今泉議員からは、市民の暮らしを守るため、柏崎刈羽原発の再稼働に反対すべきではないかというようなご提言でございます。今泉議員からもございましたけれども、柏崎刈羽原発再稼働に関する質問につきましては、今回で3回目でございます。答弁内容が重複する部分がございますが、ご了承を賜りたいと存じます。

原発再稼働に関する私の考え方は、これまでと基本的に変わっておりません。決して原発を容認するものではありません。安全性が一番ですから。ただし、国の政策として、もう長年にわたって原発を日本中に造っているわけですから、それらの稼働が、停止しますと、それだけ電力が逼迫して、結局、電力の価格にもつながっていく可能性もあるだろうと。ただし、日本は災害列島でございますし、特に気候変動によって何があるか分からないような、あと、地殻活動も活発化しているように感じておりますので、今泉議員おっしゃるのはごもっともでございます。

国の施策の下、法律によって極めて厳格に、特に再稼働する場合はいろいろな手順を踏んで、しかも、原子力関係の国内最高の知見をお持ちの方たちが協議して、許可する許可しないということが出ているはずでございます。そういったことで、私どもとしましては、地元でございますから、新潟県や、あるいは原発の周辺の自治体が長期にわたる様々なプロセスを経て総合的に判断して、地元の合意という大変重い結論に至ったものと思料されますので、再稼働を容認した地元自治体の意思是尊重されるべきだと思います。

ただし、今泉議員からもありましたように、風とか何かの、地震とか、いろんな災害によって、隣県である山形県、とりわけ新潟に近い私どもにどういう影響があるか分からない。そのときは重篤な状況になるかもしれません。したがって、市民の皆様の命と健康を守るために、これはしっかりと意見を申し上げるべきだというのはごもっともでございます。

前日も申し上げましたように、実は隣接している小国町長とお話する機会があったときに、小国町長と話したのは、確かに新潟だと、柏崎刈羽原発。でも、その周辺の自治体と新潟県が決めるというのはいいんだけど、最終的に隣県である、新潟の隣県の山形、あるいは福島なんかとも、きちんと意見を求めて、理解を求めた上で、最終的な決断をするべきではないかと。とりわけ我々新潟に接している小国町とか飯豊町とか、そういった市町村の意見も尊重されるべきだと。何よりも山形県にきちんと説明があったのかと。ですから、山形県議会はどうなっているんですかと。県は、吉村知事はどうおっしゃっているんですかということも私も前にも申し上げました。もし山形県で、もう一回慎重にということ配慮を求めるといような、議会も含めて、そういった要望があれば、私どもとしても、あるいは長井市としても、これは一

緒に同意しながら、そういった、あるいは原発の中止とか何かを、再稼働の中止を求めるということはあるかもしれませんが、現時点で私も長井市だけが反対してどうのこうのというのは、現実問題として、なかなかそれを聞いてもらえるような状況ではないだろうと思います。私どもで反対するんだったら、少なくとも小国町長とか飯豊町長が、では長井市さんも協力してくれと、隣接している我々は非常に脅威だと、長井市だってどうなるか分かんないでしょと言われるようなことがあれば言いますし、あと、小国町長と相談したときは、県も動いてほしいと。そして、我々にもしかるべき説明があるべきであるということをお話しておりましたが、そういったことを含めて、これは市町村レベルではなくて、少なくとも地方自治体としては県同士で意見交換していくべきだと思っております。ただ、決して、だからといって、我々関係ありませんということ逃げているわけではありませんので、そこはご理解を賜りたいと思います。

前回の答弁におきまして私の個人的な思いについてもお話しさせていただき、私が決して偏った発言をしているのではないということをお泉議員にもご理解いただいたと思います。

私が以前勤めておりました出版社は、原発は大反対、もちろんですよね。それから環境とか教育とか、そういった本を主に出しておりましたんで、そういったことで私も、能力は低いので自分が編集の中心にはなり得なかったんですが、編集に関わらせてもらったり、あるいは直接本のテーマである人たちとか、現地を出向いて意見を聞いたりしてやっております。

そういった意味では、原発というのは、今までは必要悪としてきたんですが、もうここに至っては、いかに収束に向かうかということが肝腎だと思いますが、ご承知のとおり多額のお金がかかるわけですね。多分何十兆円、下手したら100兆円超えますよ。そのぐらい原発をなく

すというのは大変な状況なんですよ。

ですから今、再生可能エネルギーということで、私も長井市は、再生可能エネルギーは山形県の市町村では多分断トツだと思います。なおかつ、長井市内の小・中学校は、地元の再生可能エネルギー、主におひさま発電のメガソーラーなども使わせてもらっていますが、あとは、これから野川第一、第二、県の企業局でございしますが、あとは、関連して、のがわデンデンとか、それから私どもは県の誘致企業だということで、私どもが最終的に責任を負ってやっておりますが、バイオマス発電ですね、寺泉にある。私どもが今度造る、今工事中の五十川のバイオガス発電、そういったことなども含めて、私どもはそちらに転換すべきだと。ある程度高いのは、国民にしっかりと説明をして、理解を求めながらやっていくべきだと思っておりますので、決して逃げているわけではございませんが、今泉議員おっしゃるように、もしかというときに、これは割と高い確率である可能性が想定されるんですね。したがって、私どもとしても、議会の皆様と機会があれば、しっかりと意思を表示する、あるいは反対と、再稼働は慎重にということをおし上げる機会を、そういった機会がいずれ来る可能性もありますので、そのときはしっかりと、私どもだけではなくて、近隣の市町村、あるいは県と一体となって、そういった再稼働に対しての反対、あるいは慎重なご意見を申し上げていきたいと考えておりますので、ぜひその際は、今泉議員やら、あるいは日本共産党さんのほうからもご教示賜ればありがたいと思います。

○内谷邦彦議長 15番、今泉春江議員。

○15番 今泉春江議員 いろいろ詳しくご答弁いただきました。

まず、消雪化についてですけれども、市長のおっしゃるように、何回か質問させていただいております。というのは、地元の住民の方が本

当に苦勞なさっているということを目の当たりにしておりますので、その都度、建設課さんなどにも、いろいろ見てくださいねということでお願いはしております。ですから、市長の答弁にもありますように、丁寧に除雪はさせていただいております。それは間違いなくあれなんですけれども、いただいていますので大変ありがたいことですが、狭い道路で、市長もおっしゃったように側溝も、雪が捨てられるような側溝ではなくて、道路に面してアパート、それから住宅がありますので、非常に大変と。地域住民だけならともかく、あそこを市営バスも通りますし、朝9時半ぐらいにあそこをバスが通りますので、時々ここ、議会に来るときに、ああ、今日も通ったななんていうことで、見送りながら来たところですけども、本当に、私質問すると、自分の前だからとか皆さんおっしゃるんですよね。だから、先ほども申し上げたように、自分の前だからこそ、本当にどのぐらい皆さんが、地域住民の方が苦勞なさっているのかと、この道路の状況はどうなのかということが分かるものですから、自分の前だから遠慮するというのではなくて、地域住民の暮らしを守るためには、要望というのは必要でないかなと思って、強く市長に申し上げているところでございます。

市長も重々それは分かってくださっていると思いますので、そして、市長のほうからは、いろいろと計画について説明を受けました。今日の市長のお話をちょっとまとめまして、地域住民の方に分かるように、ニュースとか何かでお知らせしたいと思っておりますが、すぐにはできないと、いろいろ財政的な問題もあるということなんですけども、館町の除雪ができたときに、先ほどもお話ありましたけど、測量までしていただきました、あそこまで。それで、皆さん、いや、測量もしたから私たちのほうもと、非常に喜んでいたところでしたが、どういうわ

けか、あそこだけ残ってしまいました。

私は素人判断ですので、ちょっと簡単に物事を考えてしまいますけれども、あら町のほうから50メートル、四ツ谷のほうから50メートル、こうすると、あそこ除雪がつながるんでないかなというような簡単な考えを持って、いや、そういうことってできないのかなと思っておりますけども、そう簡単ではないということでしょうか。非常に、あそこだけという感じで取り残されているものですから、とにかく地域住民の方はもちろんですけど、本当に市営バスも通ると危険だということで、何度も何度も強くしつこく申し上げておりますが、そういうような方法というのはできないんでしょうか。市長、いかがでしょうか。

もちろん工事費というのもかかるでしょうけども、そういうことはいかなるものでしょう。

○内谷邦彦議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 今泉議員がおっしゃっているのは、多分グンゼ通りと、あと、桐町成田線という県道があって、そのところに除雪があるから、その除雪のポンプを使えないかということだと思っておりますが、1つは、多分、最大の延長でポンプの容量はあるはずなんです。

あと、向こうのあら町のほうは、取りあえず県が昔整備したものでございますので、ポンプのところはどこなのか、どこにポンプがあって、どこをボーリングしているかということにもよるんですが、多分、全体的に、150メートルですけども、さっき大体500メートルぐらいとお話ししましたがけれども、それも設計でボーリングを掘っているはずですから、あと、管もその容量の管ははずですから、そうすると、150メートル延長でそこを使っちゃうと全体に弱くなって、多分除雪の圧力がかなり下がるということなので、一番そういうふうにして150メートルですから、先ほど言いましたように、500メートル最大でやったほうが、ボーリングという

のは5,000万円ぐらいかかりますから、それは少ししか使わなくても、ある程度最大使っても同じなわけです。

ですから、それを考えたら最大でやったほうがいいということで申し上げたんですが、そのところを具体的に担当のほうから聞くと、ちょっと容量的に、調査しないと何とも言えないけども、恐らく、ずっと長い延長のところなんで、何本かボーリングしているはずなんです。ですから、その辺を詳しく見て、150メートルをちゃんとした機能を果たせるぐらいの水を、圧力を出せるか、そういったところを検討しないと一概には申し上げられませんが、もしそれで可能であれば、150メートルで、これはこれで6,000万円ぐらいかかるんですが、それは、でも、もともと課題であった場所ですから、そこから西側の百間道路沿いは、先ほど申し上げましたように広い水路があるので、そこは地元の方も納得いただけるかもしれませんので、そういったことも含めて再検討いたしますが、この段階でお約束はできませんが、もし可能だと、あるいは県のほうから聞いても、そちらを、では使っても大丈夫だということであれば、再度検討してまいります。

その際も、たかだか五、六千万円でしょうと言うかもしれないですけど、五、六千万円で大きいんです、事業費としては。ですから、そのときも、何らかの補助事業で合わせて、ただ、そういうことでできるということになれば、いつ頃できるという見通しが立ちますので、今は、ウオーカブルシティで文教の杜周辺を面的整備とか、電柱の地下埋設と、あそこ、ミニ美術館を4つ造るとか、ウオーカブルシティとしてやっているわけです。それが終わった、その次の長井市としては第六次になるのかな、五次になるのかな、五次の再生整備計画事業、中心市街地でまだ必要なところがたくさんありますので、その事業の際に、お待たせしましたということ

になれるように頑張りたいと思いますが、ちょっと今の段階で何とも言えませんので、ご了承いただきたいと思いますが、もし可能だったら検討してまいります。よろしく申し上げます。

○内谷邦彦議長 15番、今泉春江議員。

○15番 今泉春江議員 私からこう言うのもあれだけど、いろいろ知恵を絞っていただいて、何とか住民の苦難軽減のために知恵を絞っていただきたいなと思っております。本当に何度も要望しておりますが、もうこれが、これでなければ、もうあそこの住民の方には、もう自分たちで頑張ってくださいとお願いするしかなくなりますので、ぜひ住民の方にもちょっと希望を持っていただけるような、そういうような計画を立てていただければと思っておりますので、ぜひいろいろ検討していただきたいと思います。お願いを申し上げます。

市長もおっしゃっていましたが、危険性とか捨場がないというのは、本当にあそこ、そのとおりでございますので、そのところを見ていただくということ。本当に建設課では除雪、丁寧にしていただいております。地域住民の方がひどいとき、お電話なんかなさっていますけれども、見に来ていただいて、必要であれば除雪していただいておりますので、大変そこはお礼を申し上げたいと思います。そういうことで、ぜひ前向きに進めていただくように、よろしく願いいたします。

原発再稼働でございますが、12月議会でも市長からは同じように答弁いただいて、議事録もございまして、お考えはそのとおりだと思いますけども、再稼働すると言ってから、何かいろいろ見ると、5回も何かいろいろな問題が起きて、また、新潟県知事は県民の意識調査をまたなさる、県民の意見というか、あれをしたいというようなこともおっしゃっていますし、非常にこの再稼働というのにこういう不備があ

ると、本当にスムーズに再稼働できればこんなにも反対はなかったと思いますけれども、次々と不備が出て、不安を大きくするというようなことが現状ですので、ぜひ慎重にと、本当に。

それと、この柏崎刈羽原発は東京電力ですので、関東のほうに電気、東北、私たちのところには来ない。来ないから、ではおまえたち駄目だということではないんですけども、電力は必要ですけども、安全にということが担保できなければ、再稼働というのはちょっとお待ちくださいと、もう少し安全をちゃんと担保しろということ強く言いたいですね。もちろん私たちは原発反対ですのであれですけど、安全というものはしっかりと担保していただきたいということですね。

そして、先ほど市長がおっしゃいましたけども、山形県でどう考えるかと、隣の県ですのでね。だから県議会なんかにも動いてほしいと、働きかけが欲しいと。私たちも頑張って県議会に働きかけますので、ぜひ各自治体、小国町、飯豊町、長井市、県議会にも働きかけをしていただいて、県にも、どういうふうに安全が担保されるのかというようなことを、ぜひお願いしたいなと思っております。そして本当に住民の暮らし、命というものをまず優先的に考えていただいて行動してほしいなと思っております。

いろいろ答弁いただきましたので、また議事録などを見させていただいて、市長のお考えを確認したいと思っております。よろしくお願ひいたします。

質問を終わります。

鈴木英則議員の質問

○内谷邦彦議長 次に、順位7番、議席番号2番、鈴木英則議員。

(2番鈴木英則議員登壇)

○2番 鈴木英則議員 公明党の鈴木英則でございます。

今期の冬の山形県は地域差が大きく、平野部では積雪が少ない一方、山間部では平年並みか多めの積雪となって、長井市周辺は積雪が20センチ程度と少雪傾向でしたが、月山姥沢では568センチメートル、新庄周辺でも45センチメートルと、山地ではしっかりと雪が積もっております。

一方、長井でも1月には降雪合計275センチメートル、最深積雪21センチメートルを記録した日もあり、短期間にまとまって降る局地的な降雪が特徴でした。

全体として温暖傾向の影響で、低地の積雪は少なく、山沿いを中心の降雪となった冬でしたが、降雪時には深夜から、除雪車の出動されている関係者の方々には本当に感謝しております。

今回は白つつじ公園とあやめ公園の駐車場についての2点と、ながいコインについての1点の、計3点について質問をさせていただきます。

まず、白つつじ公園とあやめ公園の駐車場についてですが、白つつじ公園の多目的広場となっている臨時駐車場について、要所に細いロープがあり、停車しやすいように配慮されております。しかし、さらに視認性の高い目立つロープにするなどして、駐車しやすいようにはできないでしょうか。

これは、市民文化会館等で大きな行事があると、またタスとかでも、行事があると、ここに駐車場の係にあった方からもそんなことを言われましたし、令和6年6月にも、駐車場の白線のラインを引けないかとの一般質問をした際に、駐車場ではないので白線は引けないとの回答でしたが、何かしらの誘導しやすい、駐車しやすい方法がないかということでの質問であります。

2点目としまして、あやめ公園の駐車場について、観光バスなどが優先的に近い駐車場スペ